

令和7年度 まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

開催日時	令和7年10月20日（月）	9時30分～10時30分
開催場所	半田市役所 大会議室	
会議次第	<p>【議題】</p> <p>基本目標1 「産業を振興し安定して働く場のある『まち』をつくる」</p> <p>①所管課長説明 ②質疑 ③評価</p>	
出席委員	<p>(委員長) 鈴木委員長 (委員) 中村委員、福井委員、河治委員、福田委員、山本委員 (欠席) 松山委員、岩橋委員、林委員</p>	
事務局	企画課長、企画課（山田・中村）	
出席職員	産業課長、市街地整備課長	
議事概要		
①所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明（産業課長）	
②質疑	<p>【委員】 KPI「起業・会社設立支援補助金利用件数」について、令和6年度は2件の起業者を支援したとある。また、KPI「企業立地件数」について、令和6年度は1件の新工場建設があったとしている。これらはどういった事業者であるか。</p> <p>【産業課長】 起業・会社設立支援補助金利用件数の2件は、市内の飲食店と運送業者であり、新たに起業や会社設立をしたものである。一方、企業立地件数の1件は、工場立地法に該当する大規模な新設・増設工場の事業者であった。</p> <p>【委員】 JR武豊線連続立体交差化事業について、完了時期はいつごろか。</p> <p>【市街地整備課長】 令和12年度に完了予定である。令和11年度に高架線路への切り替えを行い、令和12年度に既存線路を撤去する。</p> <p>【委員】 KPI「飲食店営業施設数」について、この指標にキッチンカーの出店は含まれるか。</p> <p>【産業課長】 キッチンカーでの出店は指標の件数に含んでいない。 キッチンカーについて、市内のイベントと連携して出店募集をしており、イベント時の出店をきっかけとして、本市での出店がビジネスとして成り立つと事業者の方たちに感じていただき、将来的な常設店舗の出</p>	

店につなげていきたい。

【委員】

令和6年度のコココリン（半田市創造・連携・実践センター）のように、中心市街地活性化で新しい施設が整備されてきている。一方で、これまで作り上げてきた古き良き景観や古民家等の施設もある。今後、残すべきもの、変えるべきものをどのような考え方で整理していくか。

【産業課長】

現在の街並みや古民家等の施設を活かせる可能性は十分にあると考えている。令和7年度には、それらを活かしていくために古民家再生に向けた調査を行っており、将来的には宿泊施設としての活用につながる取組を進めていきたい。

【市街地整備課長】

現在、JR半田駅前土地区画整理事業でJR半田駅沿線の建物の移転などを進めている。区画整理の区域内にある御幸通りの沿道は、景観形成重点地区に指定しており、古くからの街並みや雰囲気を残していくこととしている。

【委員】

半田市の農業の特徴や魅力、他の市町村と差別化できる点はあるか。

【産業課長】

半田市は畜産業が盛んであり、農業算出額の8割以上を占めている。畜産分野は大規模な経営を行っている農業者が多く、単独でも事業を進めていける方が多い。一方で、トマト等の耕種については、農產品自体は魅力的ではあるものの、農業者の経営規模が比較的小さい。こうした小規模農業者への支援のひとつとして、農業者コミュニティの「にこもぐ」を中心とした農業マルシェの開催等、農業者と行政が連携して取組を進めている。こうした取組は全国的に珍しく、農業者等からも良い反響もいただけている。

【委員】

雇用や就労状況に関連して、昨今ではサービス業の人材不足も聞かれるが、市としてどのように認識しているか。

【産業課長】

本市は、1次・2次・3次産業がそれぞれバランスよく産業や雇用があると考えるが、サービス業については、求人に対して就業希望者が少ない可能性が考えられる。今後、特に女性や若者が本市で働き続けられる雇用環境が整っていることは不可欠である。そういう視点からもサービス業の求人と就業のギャップを解消できるよう検討を進めていきたいと考えている。

【委員】

今後の新たな雇用創出について、IT関連企業の半田市への進出状況はどのようにになっているか。

【産業課長】

現状では、IT関連企業の本市への進出状況は具体的には把握していない。

国や愛知県には、首都圏の企業に勤める方がテレワークで働きながら地方に移り住むことを支援する制度があり、本市でも活用実績がある。こうした支援制度もふまえながら、IT関連の企業や人材が本市に進出できる方策を検討していきたい。

【委員】

高校生の地元企業への就職に関連して、令和6年度には市内の1つの高校において企業PRを実施できたとある。これは、具体的にはどの高校でPRを行ったのか。

【産業課長】

令和6年度は半田商業高校において企業PRを行うことができた。教員の方たちにも聞き取りをしながら事業内容を検討し、市内の複数社の企業を商業高校の生徒に知っていただく機会が得られた。

【委員】

産業人材確保支援事業について、はんだオープンファクトリーを開催しているが、これは高校生も対象にしているのか。仮に高校3年生のみを対象にしているのであれば、就職先が既に決まっていることも考えられるため、もっと若い学年の方たちも受け入れられるとよいと思われる。

【産業課長】

はんだオープンファクトリーは、高校生に限らず全年齢の方たちを広く対象にしている。就職を間近にしている高校生はもちろん、それよりも若い方たちにも楽しんで参加いただけるイベントになっており、受け入れる企業からもPRの良い機会であると好評いただけている。

【委員】

中心市街地活性化事業において、「コココリン（半田市創造・連携・実践センター）を設置し、（中略）2件の屋号を持った活動開始につなげた」とある。この2件はどういった事業者であるか。

【産業課】

キャリアコンサルタント業及びネイル業の2者で、いずれも個人で独立したばかりの方たちである。

【委員】

KPI「Uターン者数」の数値はどのように把握しているのか。

	<p>【事務局】 住民基本台帳に基づき、以前に市内に居住しており、その後、市外に転出して、対象年度に再度転入された方をUターン者として集計している。</p>
<p>③評価</p>	<p>【委員】 A評価。 KPIが未達成のものもあるが、概ね順調に取組が進められている。</p> <p>【委員】 A評価。 目標値を上回るKPIもあり、着実に取組を進められている。</p> <p>【委員】 A評価。 特に農業分野の取組について、「にこもぐ」による農業マルシェ等で農業者と消費者が直接交流できる機会があることは評価できる。 「にこもぐ」での取組をとおして、農業者と消費者が双方の悩みや課題を共有し合い、それらを市が吸い上げて農業者の課題解決につなげていけるとよい。また、その後の展開として、課題解決の事例や成果を市内外に発信して波及させていくとよい。</p> <p>【委員】 A評価。 全体としてKPI及び取組が順調であり評価できる。</p> <p>【委員】 A評価。 未達成のKPIもあるが、課題を明確にできている。雇用創出等、一部懸念点もあるが、全体としては順調に取組が進められている。</p> <p>【委員】 A評価。 達成できているKPIが多く、また、未達成のKPIについては課題を明確化できている。</p> <p>全体としての評価は、A評価。</p>